

# オリガミアンだより

第33号

2021年1月16日発行

雪の朝 ワン字ワン字の  
肉球（たま）の跡

作者・野生捨てオオカミ

（田捨女の俳句を借用しました）

## 兵庫などにコロナ緊急事態宣言

## 教室は2月末まで休会

### ステイ・ホームで腕に磨きを

新型コロナウイルスの拡大がとどまるところを知りません。兵庫でも雪の降った12日の新年初練習日に会員の皆さんに諮ったところ、1月26日（火）、2月2日（火）、2月16日（火）の定期練習は休会することになりました。3月以降の予定については様子を見ながら判断、皆様にご連絡します。

長い休会になることを見越し、12日はややレベルを上げ、新年にふさわしい「金の孔雀」と、節分にちなんだ「鬼の顔」を練習しました。いずれもぜひ覚えて欲しい優れたものの作品です。時間はたっぷりあります。何度も何度も折ってコツをつかんでください。再開第1回目にはもう一度、「金の孔雀」と、「鬼の顔」を復習します。



肉球くっきり。ボクの大きさが想像できますか？

## 鬼の顔

『鬼滅の刃』が驚異的な興行収入を叩き出し話題になっているが、鬼はなんと言っても天狗と並び、日本妖怪変化史上最強のヒーローだ。今から一千年もの昔、大江山に棲む鬼の首領酒吞童子とその一党が退治されたのはフィクションとはいえ、日本の歴史、文化史に果たした役割は極めて大きい。

そこで12日の練習日には「鬼の顔」を座席籤に選び、同時に教室のテーマとしても取り上げた。（「鬼の顔」はネットで「鬼の顔」「折り図」で検索すると「ばあばの折り紙」コーナーで出てきます。この種のコーナーでは珍しく、丁寧にゆっくり音声入りで解説してくれ、実に分かりやすいのでお勧め。右の写真を目印に探してみてください。動画とこの折り図の両方を見ながら折り進んでください）



首を切り落とされてもなお、源頼光の兜に噛みつく酒吞童子。小松和彦『日本妖怪異聞録』から引用。昔は絵本でこうした知識が自然に入ってきたものですが…



写真①、②は「オリガミアンだより」28号で紹介したトナカイの折り順と同一のため省略

真ん中に挟まっている小さい三角を半分に折り、これを目安に外側の三角形を写真のように折り返す



④を縦に折り、⑤のようにし、ツノの分を作る



ツノの部分を左右に引っ張り、形を整える。鬼らしさが漂ってきた



⑦の上部を折り下げた後、目の部分をつくるため点線に沿って折る



目印よりやや下まで折り上げる



顔の部分が整ってきた



口になる部分を作り出す



牙になる部分を丁寧に折ることが大事



鬼の顔完成。目と牙がポイント。この2点を意識しながら折る」と



NHK 日曜美術館 特別編 2017・3・26

井浦 新「異形探訪」から

なぜ鬼や天狗など異形が生まれ、大切に守られてきたか。苦しさ、生、死、喜びが全て詰まっているから。

青森県津軽地方・弘前市石川の八幡宮では鬼が鳥居の額束に居り、上の島木を肩で背負う。弘前市鳥井野の向山姫神社にも同じような光景あり。こうしたものは岩木川沿いに40カ所しか見られない。

鳥居に祀り上げるほど鬼を大事にするのはなぜか？ 冷害と凶作が多い青森で人々は必死に命をつないできた。何かに寄り添いたい気持ちの表れだろう。五所川原市金原では「鬼が堰を作ってくれ、『鬼沢』では稲ができるようになった。人知を超えて支えてくれた」の声。「鬼、ありがとう」と地区ぐるみでしめ縄づくりを続けている。

この地方には「鬼神社」と金文字で書かれた額束（がくつか）も存在する



覚えた鬼の折り紙を節分豆まきの主役にどうぞ